

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期・前期	3・4	1	必修
担当教員			
池上 益世			
水1、2			
添付ファイル			

科目の概要	前半は個別健康教育における基本的なスキルや心構えについて体験的に学習ができるよう、ロールプレイによる模擬個別健康教育及びコンピューターシステムを使った模擬イベントなど行う。 後半は生活習慣病予防などのテーマで模擬集団健康教育の実施と相互評価を行う。
授業の内容	<p>第1回 前半オリエンテーション・栄養教育におけるカウンセリング 授業の進め方、成績評価について説明する。 栄養カウンセリングについて解説する。 栄養教育論 I で使用したテキストの栄養カウンセリングの項目を復習しておく。</p> <p>第2回 栄養カウンセリングの基本的態度 1 栄養カウンセリングの基本的態度について解説し、カウンセラーとクライアント役に分かれて、聴く姿勢・態度について体験する。 栄養教育論 I で使用したテキストの栄養カウンセリングの項目を復習しておく。</p> <p>第3回 栄養カウンセリングの基本的態度 2 傾聴を構成する技法についてを解説する。 相手の話を熱心に聞く態度と正確に聞き取る方法について体験する。</p> <p>第4回 模擬個別健康教育の計画 1 テーマに沿って個別健康教育を計画する</p> <p>第5回 模擬個別健康教育の計画 2 個別健康教育の内容を検討する。</p> <p>第6回 模擬個別健康教育の発表と相互評価 1 個別健康教育を実施する。 他の組の発表について、評価する。</p> <p>第7回 模擬個別健康教育の発表と相互評価 2 個別健康教育を実施する。 他の組の発表について、評価する。</p> <p>第8回 模擬個別健康教育の発表と相互評価 3 個別健康教育を実施する。 他の組の発表について、評価する。</p> <p>第9回 模擬個別健康教育の発表と相互評価 4 個別健康教育を実施する。 他の組の発表について、評価する。</p> <p>第10回 コンピューターシステムを活用した栄養教育 I ・食生活の聴き取り方 システムの準備をする。 評価する栄養価を設定する。 自分の食事を確認しよう。</p> <p>第11回 食事記録表の精度のあげ方を学ぶ コンピューターシステムを活用した栄養教育・食生活の聴き取り方 システムの準備をする。 評価する栄養価を設定する。 自分の食事を確認しよう。</p> <p>第12回 食事記録表の精度のあげ方を学ぶ 前半まとめ 試験 まとめと試験を行う。</p> <p>第13回 後半オリエンテーション・集団を対象とした栄養教育について 後半オリエンテーション 授業の進め方、成績評価について説明する。 集団栄養教育の進め方について説明する。</p> <p>第14回 栄養教育論 I で使用したテキストの栄養教育の項目を復習しておく。 集団を対象とした栄養教育について アセスメントと計画書作成 栄養教育論 I で使用したテキストの栄養教育の項目を復習しておく。</p> <p>第15回 ライフステージ別、課題別の集団健康教育の計画 1 スライド、シナリオ、リーフレット作成</p> <p>第16回 ライフステージ別、課題別の集団健康教育の計画 2 スライド、シナリオ、リーフレット作成</p> <p>第17回 ライフステージ別、課題別の集団健康教育の計画 3</p>

	<p>第18回 スライド、シナリオ、リーフレット作成 ライフステージ別、課題別の集団健康教育の計画4 スライド、シナリオ、リーフレット作成</p> <p>第19回 ライフステージ別、課題別の集団健康教育の実施と相互評価 1 模擬集団健康教育の発表を行う。 他者の発表を聞き評価する。</p> <p>第20回 ライフステージ別、課題別の集団健康教育の実施と相互評価 2 模擬集団健康教育の発表を行う。 他者の発表を聞き評価する。</p> <p>第21回 ライフステージ別、課題別の集団健康教育の実施と相互評価 3 模擬集団健康教育の発表を行う。 他者の発表を聞き評価する。</p> <p>第22回 ライフステージ別、課題別の集団健康教育の実施と相互評価 4 模擬集団健康教育の発表を行う。 他者の発表を聞き評価する。</p> <p>第23回 ライフステージ別、課題別の集団健康教育の実施と相互評価 5 模擬集団健康教育の発表を行う。 他者の発表を聞き評価する。</p> <p>第24回 課題再提出 シナリオ等訂正再提出</p>						
学習到達目標	管理栄養士として、健康の保持・増進につながる栄養教育を行うために必要なスキルを身につける。 個別健康教育の実践に必要なカウンセリングの基本的な技術を体験を通じて身につける。 集団健康教育のために対象を評価し、計画し、実行、評価を行うための技術を身につける。						
授業の方法	前半はカウンセリングの基本的な技術をレクチャーと体験を行うことによって学び、学習した技術を基本にしてロールプレイによる模擬個別健康教育を行う。またコンピューターシステムの使用方法を学び、イベントのシミュレーションを行う。 後半は集団健康教育を企画し、実施する。						
成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>1 実習への参加態度</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>2 発表</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>3 課題、媒体、相互評価</td> <td>30%</td> </tr> </table>	1 実習への参加態度	40%	2 発表	30%	3 課題、媒体、相互評価	30%
1 実習への参加態度	40%						
2 発表	30%						
3 課題、媒体、相互評価	30%						
教科書・テキスト	必要時プリントを配布する。						
参考書	栄養カウンセリング論 第2版 小松啓子・大谷貴美子編 講談社サイエンティフィック						
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	健康教育論の教科書を復習し、実習で行う模擬健康教育の企画や実施に必要な知識を再度確認する。 病院や薬局、官公庁などで配布されるリーフレットやパンフレットをもらってくる。街中で見かけるポスターなどの掲示物の写真にとる。など日ごろから情報収集に努める。 媒体作成や課題の検討、健康教育のシナリオなどは授業時間外の作業が必要ですので積極的に取り組むこと。						
履修上の留意事項							
オフィスアワー	木曜日3限						
課題に対するフィードバックの方法	発表・媒体への相互評価・助言を個々に返却する。						
実務経験	行政栄養士						
その他	欠席したときは次の実習までに池上にメールで連絡をして指示を受ける。						